

公益財団法人東京しごと財団委託事業 東京都補助事業

# 東京ジョブコーチ



## CONTENTS

Customers Voice  
幼児活動研究会株式会社  
東京都立足立特別支援学校

東京ジョブコーチ支援のここが良かった！

2019.2  
第14号

東京ジョブコーチ職場定着支援事業広報紙（年2回発行）

総務部総務課 課長 西岡 一徳 様



総務部総務課  
課長 西岡 一徳 様  
2006 (平成 18) 年入社。  
2015 年より障がい者雇用担当。

幼児活動研究会株式会社

【事業】  
園児・小学生への体育指導、保育所・塾の運営、旅行企画および手配業務、幼稚園・保育園経営コンサルティング等、子どもに携わる幅広い事業を展開。

【創業】  
1972 年 (昭和 47 年) 9 月

【所在地】  
本社：品川区五反田 2 丁目 11 番 17 号  
事業所：全国に 60 ヶ所

【URL】  
<http://www.youji.co.jp/>

障がいのある社員の存在がプラスになるのだということ  
会社全体の意識として浸透させていきたいと思えます

御社の事業内容をお聞かせ下さい。

西岡様 (以下 N)：主な事業は、私立幼稚園・保育園に私たち社員が体育指導員として伺って行う体育の授業です。午前中は全園児を対象に体育の授業、午後は希望者を募って体操、サッカー、新体操をはじめ、温プールを併設している園では水泳といったスポーツ全般の体育教室を行っています。また、それらの教室での遠足や合宿等の行事やイベントの運営、幼稚園、保育園の経営コンサルティング等も行っています。その他には子供たちに出来ることは自分でする「自立」をコンセプトで始まった「YYプロジェクト」。それを実践するための「YY塾」も運営しております。

「YY塾」の内容を教えてください。  
N：「YY塾」は独自のプログラム、読み書き計算、音楽、体操を手段とする教育の施設

であり、特徴として「全員が出来るようになることを目指しています。例えば逆立ちなら一〇メートルくらい歩く、跳び箱なら年長は十段を跳びます。スパルタ教育では子どもは出来ません。四段は跳べる子であったら、四段を色々な方法で工夫してあげて、何回も跳ぶなかで自信を付けてあげる。次に五段が跳べないのであれば、四段と五段の間で少し頑張れば出来ることを課題として与えてあげると、出来るようになった時に子どもはどんどん意欲をもってチャレンジするようになります。指導員が最初のきっかけづくりの声かけや環境設定をすることで子どもたちが持っている力を最大限引き出せるようにしています。

成功体験の積み重ねは自己肯定感につながりますね。子どもの心が成長するプロセスの中で大事な基盤であると思えます。次に、障がいのある方の雇用状況を教えて

下さい。  
N：現在、全社で障がいのある社員が一〇名働いております。本社には知的の方が五名勤務しています。五名のうち一名が知的・発達重複、もう一名が知的・身体を重複しています。近くの保育所で一名働いているので東京では六名を雇用しています。

本社で働く五名は、私の所属する総務課にて PC 入力、名刺作成、ホームページ作成補助、DM の丁合、封入、コピー用紙の定期的な補充、シュレッダー、ラミネート、押印、梱包、郵便局での発送業務の事務補助作業に従事しています。

弊社では来社されたお客様に靴を脱いでいただき、社員が靴磨きをしています。また、環境整備にも力を入れておりまして、毎朝全社員で社内清掃をしています。障がいのある社員にも、靴磨き、清掃で使った雑巾の洗濯、トイレの簡易的な清掃を行ってもらっています。保育所で働く方には、子どもと一緒に遊んだり排泄補助や製作補助をしたり、いろいろな仕事を行ってもらっています。障がいのある方一人ひとりの良いところを引き出し、活躍の場をひろげられるように日々新しい業務を切り出す努力をしています。

仕事の内容が豊富ですね。西岡さんが担当になられてから雇用を促進してきたのですか。  
N：(常時雇用労働者数三〇〇人を超える事業主に雇用義務が課せられていた時代に)従業員が三〇〇人を超えた時、ハローワークからの連絡をきっかけに、当時の担当社員が精神障がいのある方を採用しました。その後も精神の方の採用を継続していたの



ですが、気持ちが落ち込んでしまった時に適切な対応がなかなか難しい状況がありました。精神障がいの方の入退社が続いたため、私が担当になった直後には、情報収集のために他社の見学に行くことにしました。他社のモデルを見る中で、私たちの仕事は、知的障がいのある方が適しているのではないかと思ひ、積極的に採用を始めました。

**採用時に大切にしていることはありますか。**  
N・社風にある「素直・謙虚・感謝」の気持ちがあること。また、しっかりと挨拶できることも大切です。業務の能力は働きながら身に付けられます。それよりも社風に合う方、人間性を重視しています。

**東京ジョブコーチ（以下TJC）へ、数年にわたってご依頼をいただいています。最初のきっかけは何ですか。**

N・現在入社三年目のAさんが入社した九月、初めてTJCを依頼しました。Aさんは、自分のこだわりがあり、決められたルール以外の方法で勝手に進めてしまう点が課題として見受けられていました。私たちは経験がなく困っていたところ、東京都教育委員会の方からTJCのご紹介をいただきました。

翌年の四月にもTJCに入っていたいただきました。総務としては年間でも最も繁忙期です。私は、総務課の管理も兼任しながら障がいのある方を指導していたので、手が行き届かない不安もありましたが、TJCの方が定着支援で一番大変な入社直後の四月に一

緒に入ってくれて、サポートして下さい非常に助かりました。

**印象的な支援内容はありますか。**

N・Bさんは、定期業務の一〇〇まで数を数える場面で、いつも途中で数を忘れてしまうため何度も一から数え直すことが課題でした。そこで、TJCの提案により、一〇、二〇、と枠線の中に一〇ずつ一〇〇まで数字を書いた紙とクリップを用意しました。Bさんが、一〇数える毎に紙の上にクリップを一つずつ置いていき、一一、一二、一三と端数も目で分かるような「自助具」を作っていたこと、いくつまで数えたかがひと目で分かるようになりました。その後、Bさんが席を外した後も、「自助具」のおかげで席に戻ってすぐに数が分かるようになったので、以前のように数え直す場面がなくなりしました。Bさんの業務中、TJCが紙と鉛筆を用いて、この「自助具」をその場ですぐに提案してくれたことが、とても印象に残っています。また、TJCが障がいのある社員のために写真付きのマニュアルを作ったこともありました。文章のマニュアルは以前からあったのですが「この方にとっては、文字だけより写真が入っていた方が理解しやすいです」とTJCにアドバイスをいただきました。このように「自助具」を考える習慣等、私たち社員がTJCから教わったことは支援終了後の今も、とても役立っています。

**一緒に働く周りの社員の方の関わり方に、**

**「自助具」を考える習慣等、私たち社員が東京ジョブコーチから教わったことは、支援終了後もとても役立っています**

**何か変化はありましたか。**

N・私がいけない時、障がいのある社員には必ず総務課の他の社員に報告するように指示しています。普段も一緒に話をしたり、関わりをもってくれたりしています。障がいのある方はみんなを笑顔にしてくれます。障がうなパワーがありますね。繁忙期になるとピリピリすることもありますが、急に「お昼はおそばを食べることにします！」とフロア内で大きな声で言ったり社内雰囲気や和ませてくれたりします。

**障がい者雇用に関し、今後の展望を教えてください。**

N・雇用は義務ではありませんが、義務を超えたところで、会社の戦力として採用していきたいと思っています。障がいのある社員にできる仕事を任せていくことで、本業である体育指導に時間を費やすことができ、子どもがどんどん成長してくれたら、と願っています。また、会社全体の経費削減に貢献し、障がいのある社員の存在がプラスになるのだということを会社全体の意識として浸透させていきたいと思っています。



エントランスにて社員の皆さんの明るい笑顔と挨拶が印象的でした

職能開発科  
普通科

進路専任  
進路指導部主任

主任教諭  
主任教諭

表 昇 先生  
朝倉 敏文 先生

職能開発科について教えてください。  
表様(以下O)・・・本校は二〇〇七年四月に都内で最初に普通科設置の特別支援学校高等部に職業コースを設置した学校です。二〇一四年四月に職能開発科が設立され、物流や小売に関するコースと食品加工・販売に関するコースの二つのコースを設けています。現在職能開発科の前身である職業コースの生徒が七期生まで卒業し、二〇一九年三月に卒業する生徒達が職能開発科の三期生です。職能開発科は三年間のカリキュラムを通して一〇〇%の就労を目標としています。過去の就職者は九五%を超える就労率を達成しています。今年度の卒業生も含めて過去一〇年間、高い就労率で推移しており、生徒達が頑張っているという成果であると感じています。他校に先駆けた取り組みでは、雇用前提の一〜二週間の現場実習とは別に、年間を通じた職場体

実習経験を通して自己理解を深め、自分の適性と現実をすり合わせるプロセスを大切に育んでいます



職能開発科 進路専任  
主任教諭 表 昇 先生

2007(平成19)年4月より現職。  
本校では約12年間、進路指導に従事している。

東京都立 足立特別支援学校

【沿革】

1978年4月 開校

2007年4月 普通科職業コース 設置

2014年4月 職能開発科 設置

【生徒数】普通科 150名

職能開発科 57名

【所在地】足立区花畑7丁目23番15号

【URL】

<http://www.adachi-sh.metro.tokyo.jp/site/zen/>

験・実習があります。ご協力いただいている企業等の職場で、毎週のように実習させていただき取り組みをコース開設以来行っています。豊富な実習経験を積んで社会に出ていくことができる点は、本校職能開発科の強みと言えます。実習先には介護施設、物流、倉庫、事務系オフィス、図書館等様々な職場があり生徒に合わせて実習先を選んでいる状況です。  
二つの科の連携について教えてください。  
O・・・職能開発科で製作したパンを普通科で営業するカフェで販売する等、それぞれの取り組みを活かした連携も少しずつ深めています。この一〇年間で二つの科が並置するメリットが活かされてきており、学校全体の発展につながっています。私はこの学校に来て一二年目で、職業コース設立当初からずっとこの学校にいますので、その成長を見続けてきた実感があります。



普通科 進路指導部 主任  
主任教諭 朝倉 敏文 先生

普通科の特色を教えてください。  
朝倉様(以下A)・・・職能開発科には一〇〇%就労という数値化された目標がある一方、普通科の場合には何%就労というよりも、受け入れた生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、どの進路選択が一番望ましいのかを生徒と一緒に考える点を大切にしています。その点が普通科と職能開発科の最も大きな違いです。このため、企業就労する生徒数が年度によっても違います。ここ五年間で最も少ない年で三〇%弱、二〇一七年度卒業した生徒は五〇%を超えています。普通科の方は体を動かす清掃や現業系職種が多くスーパールの袋詰め・品出し、飲食店厨房での食器洗浄・盛付け等への就職実績が多くあります。例年、事務系職種への就業者も若干名います。  
どのように就労支援を進めていくのですか。  
A・・・「キーキ屋さんになりたい」「CDショップで働きたい」等、生徒は夢をもって入学してきます。夢や憧れはとても大切ですが、現実とすり合わせていくためには言葉で説明しても生徒はなかなか理解できません。そこで一番大切なのが実習経験です。実習を通して、世の中にどんな仕事がある

## 比較的早期に東京ジヨブコーチを活用することで、 長期的に見ると円滑に運ぶ事例もあるのだと感じました

のか、自分がどういう仕事ができるのかということを体験しながら、生徒は成長していきます。実習経験を通して自己理解を深め、その積み重ねの中で自分の適性と現実をすり合わせるプロセスを大切に育んでいきます。

**東京ジヨブコーチ（以下TJC）を利用されてみていかがでしょうか。**

○…TJC事業開始当初からお世話になっています。二〇一七年度には、事務職種で働く卒業生や在校生の実習時、TJCに支援してもらえて助かりました。一番の大きなメリットは、やはりスピーディに対応いただける点です。在校生の実習時期に支援してほしい場合や、在職する卒業生の課題に対応してほしい場合等、私たちでは対応が難しい場合があります。TJCの存在により、企業や本人にとってタイムリーに必要な支援を提供できる点は、本当に大きなメリットです。また、支援対象者や職場環境に見合ったTJCを選んでいただいています。支援対象である生徒との相性により同性のJJCをお願いしたり、飲食関係の支援先には厨房業務支援に強みのあるTJCの方にお願いしていたりしました。依頼者のリクエストや企業様のニーズにも柔軟に対応していただき、とても感謝しています。

**（前号掲載の）叙々苑様とはTJCを利用して定着を図っているとうかがいました。**

○…叙々苑様では本校の卒業生Cさんもお世話になっています。就職後、さらに職域

を広げたいという澤課長の相談を受け、Cさんの支援としてTJCを活用した実績があります。その結果、企業より、Cさんのキャリアアップと安定した就労につながられたという評価をいただきました。

**TJCの活用のコツを教えてください。**

A…数年前、生徒DさんがE社で実習した際、TJCが支援に入っていました。E社は新しく設立された企業であったため、TJCより実習生のサポートだけでなく、企業のある方への関わり方を助言する場面が見られました。設立初期にTJCの支援を活用することで、雇用管理のノウハウが企業側に蓄積されていく様子があり、とても有効なTJC支援の活用方法であると感じました。E社に就職後、Dさんは実習中に学んだことを基礎に、少しずつスキルアップして仕事の幅も増えています。TJCを利用するタイミングも大切であると感じています。個人的には、在職中に大きな課題が生じた後では大きな改善は難しいように思います。E社のように雇用開始間もない企業や実習段階等、比較的早期にTJCを活用することで長期的に見ると円滑に運ぶ事例もあるのだと感じました。E社のような好事例を増やしていくためには、TJCとこの支援の選択肢があるということや学校から企業にもアナウンスした上で支援の形をどのように構築していくのかという点も含めてタイアップしていきたいと思えます。

## 今後の就労支援の展望を教えてください。

○…一〇年前とは職場環境が大きく変化してきました。特例子会社が増えましたし、事務職種で就職できる機会も増えました。一〇年前、知的障がいのある方にPCスキルを求められる機会は少なかったですが、現在PC業務へのニーズは確実に高まってきています。本校も資格取得の機会を設けたりPCを学ぶ授業を増やしたり、この一〇年間でカリキュラムも大きく変わってきました。社会の環境変化や企業ニーズを的確にキャッチし発信できる専任という立場を活かし、生徒達が必要な職業スキルを身につけられるよう柔軟に対応していかねればならないと感じています。

二〇一七年度、本校の保護者が参加する学校公開講座にて、TJC支援室のコーディネーターに事業案内をしてもらいました。今後、保護者からもTJC活用のニーズが増える可能性があります。また、雇用経験の少ない企業での実習や就労の機会には、E社のように職場環境を早期に整備する目的で、学校からもTJCの活用を積極的に広報させていただきたいと思っています。



夕焼け色に染まった校舎前にて  
下校する生徒の皆さんが  
明るく挨拶してくれました



## 東京ジョブコーチ支援のここが良かった！

平成30年は障害者雇用に関する注目度が大変高い1年でした。

当事業においては、支援依頼の際に「障がいのある方を雇用する際には東京ジョブコーチを利用する」といって聞いたとおっしゃる方が増え、事業の認知度とともに東京ジョブコーチの支援への期待の高まりも強く感じた年でした。

今後も皆様のお役に立てるよう支援を行ってまいりますので障害者雇用についてお困りのことがございましたらご相談ください。

### < ご利用者の声 >

「東京ジョブコーチ支援のここが良かった！」というご意見をご紹介します。（平成30年度顧客満足度調査より抜粋）

#### ご本人様より

- ・困った時に助けてくれた
- ・仕事をしている姿を見られることが励みになった
- ・安心して働けるように環境を調整してくれた
- ・失敗した時のアドバイスが良かった
- ・使用する用具が分かりやすくなったので仕事ができるようになった
- ・仕事をしているところを褒めてもらえてうれしかった

#### 企業様より

- ・周囲の従業員の話を聞いた上で、様々な意見や提案をもらえて良かった
- ・仕事への責任感をもたせ、本人の自立につなげてくれた
- ・支援状況を詳しく丁寧に報告してもらえたので、見えづらかった部分が理解でき、課題の改善につなげられた
- ・指示の出し方や接し方が参考になった



表紙の絵：「オーケストラ」

作者：松元 峻資（まつもと しゅんすけ）

現在、新宿にある作業所に通う20歳です。

小学校4年生の頃から書道教室と絵画教室に通い、アート活動を続けています。

ちょうど20歳の誕生日には、銀座の画廊でのグループ展にも出展することもできました。

絵は、練馬の絵画教室「あたりえほわいえ」、書はダウン症の天才書家として有名な金澤翔子さんの教室に通っています。

様々な出会いを通じて絵も書も少しずつ雰囲気を変えていて、現在は、パソコンを使ったデジタル絵画にも挑戦中です。

楽しくかわいらしい感じが特徴で、今回表紙に採用いただいた作品は、オーケストラを聴きに行ったことをきっかけに描いたデジタル絵です。

ありえない楽器があったりして、ほとんどが想像で描いています。

今後ともいろいろな表現に挑戦したいと思っています。



松元 峻資さん

書道・絵画の他にも、フィギュアスケートやピアノなど多彩にご活躍中です。

作品ウェブサイト：

[www.shunsuke-art.com](http://www.shunsuke-art.com)



#### 活動

2012年 竹宝堂お絵かきコンテスト中学生の部「大賞」受賞

2016年 日本学生書道文化展覧会「特選」受賞

パラリンアート作家登録

2017年 日本学生書道文化展覧会「連盟賞」受賞

2018年 「Satoyama & Satoumiへ行こう2018」入選

第33回東京都障害者総合美術展入賞

パラリンアート登録作家による「十人展」出展、銀座でグループ展

## Contact us

### ▶ 事業のご利用（支援依頼等）に関すること

東京ジョブコーチ支援室

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-8-10 オークラヤビル2階

TEL(03)5386-7057 FAX(03)5386-2227

Eメール [tokyo-jc@ikuseikai-tky.or.jp](mailto:tokyo-jc@ikuseikai-tky.or.jp)

ホームページ <http://www.ikuseikai-tky.or.jp/~iku-tokyo-jc/>

### ▶ 事業全般、東京ジョブコーチに関すること

公益財団法人 東京しごと財団

障害者就業支援課 コーディネート事業係

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-10-3 東京しごとセンター8階

TEL(03)5211-2682 FAX(03)5211-5463

ホームページ <http://www.shigotozaidan.or.jp/shkn/>